

3R イニシアティブ閣僚会合における小泉総理御挨拶

皆さん、ようこそおいでくださいました。心から嬉しく思っています。

3Rは、日本が高度成長してきた40年前の、大量生産・大量消費・大量廃棄、この反省から来ています。当時は、経済発展、豊かになろうという気持ちが強くて、環境保護を重視すると製品の値段が高くなってしまうと、環境保護を軽視していたんですね。それから40年経って、このかけがえのない地球を将来に残していかなければならないということから、環境保護と経済発展を両立させる、これを小泉内閣の最重要課題として取り組んでいるところです。

その典型的な例が、就任して早々のことですが、我が国の環境省では、公用車も低公害車を1割ぐらいしか利用していなかったんです。「環境を大事にする省が、なぜ低公害車を利用しないのか。」と聞いたら、「普通の車に比べて低公害車は高いから予算がありません。」という答えでした。当時、全政府の役所では、約7000台の公用車を使っていました。そこで私は、環境省のみならず全省が、3年間で、低公害車しか使わない、高くても低公害車以外は買わないと宣言したんです。

それを3年で実現しました。民間の自動車会社も、高くても低公害車を買ってくれるのであればということで、そのための設備投資を始めました。多くの人を買ってくれて、コストも下がってきました。国民も協力してくれて、現在では新規の自動車を買う国民の6割以上は、低公害車を買ってくれています。

これはほんの一例です。総理大臣の公邸が新しくできましたけれども、太陽光発電、燃料電池、風力発電、こういうものを使うようにして、率先して環境保護に取り組んでおります。また全役所では、朝ごはん、昼ごはん、夜ごはんを食べる時、たくさんの残飯が出ます。この生ゴミを、捨てないで、肥料にして、それを農家の人が使う、再利用できるようにしています。

先日、ノーベル賞を受賞されたケニアのマータイ女史が日本を訪問されました。マータイ女史は、日本の言葉の「もったいない」という言葉に大変感銘を受けていました。私は「もったいない」という言葉は訳せないと思っていたんです。どう訳すのかと尋ねたら、英語で一番わかりやすいのは、“Don't waste what is valuable”だそうです。その精神がこの3Rなんです。

我々が子供の頃は「食べ物を残してはいけません。多くの人苦勞して作った食べ物は

全て食べなさい。」と親から教えられました。そういうのが、「もったいない」という意味の一つなんですね。当時は50年ぐらい前ですから、日本では、栄養失調で病気になったり、亡くなったりする人が多かったんです。今は逆に、食べ過ぎて、栄養を摂り過ぎて病気になる人が増えてきました。

食べるものでも捨ててしまう、使えるものでも捨ててしまう、これではいけない。「もったいない」という心と、科学技術を結び付ければ、環境保護と経済発展を両立できるのではないかと思っています。

今回3Rイニシアティブ閣僚会合が、こうして大勢の方々の参加を得て開催され、かけがえない地球を残していこう、さらに環境保護を重視していこう、そういう会議が開かれたことに対して御礼を申し上げると同時に、この会議からより良い成果が出ることを期待申し上げます、御挨拶にかえさせていただきます。どうもありがとうございました。